第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ハイ

Sinomicrurus boettgeri (Fritze, 1894)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026．ハイ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 260-264.

Citation: Toda, M., 2026. *Sinomicrurus boettgeri* (Fritze, 1894). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 260-264.

有鱗目 Squamata　コブラ科 Elapidae　　日本固有

ハイ

***Sinomicrurus boettgeri* (Fritze, 1894)**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　①②

基準 A:　—	基準 B:　VU 未満	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
①個体数が減少している。
【判断理由】
沖縄島における近年の目撃例はほぼ北部に限定され、本島中南部では森林地帯でさえ、本種の個体数はかなり減っているものと思われる。久米島でも発見の機会は少なくなっている。その他の島では、そもそもの発見例が限られるため数の増減の評価は難しいが、多くの個体が生息していると言える地域はない。

②生息条件が悪化している。
【判断理由】
沖縄島の名護以南の地域では開発により潜在的生息環境の消失が続いている。またマングースによる負の影響もあると考えられる。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

沖縄諸島の固有種で、多くの島から記録がある。赤褐色と黒色のストライプ、白と黒のバントを併せ持つ美しいヘビで、山地から平地の森林域に生息する。ヒャンの徳之島集団は体色パターンが本種に酷似している。もともと発見事例が限られることから個体数は多くないと考えられるが、森林環境の減少に伴い個体数はさらに減少していると思われる。また、沖縄島と慶良間諸島の一部ではそれぞれマングースとイタチにより負の影響を強く受けているものと思われる。

基礎情報

【形態】

頭胴長はオスで 345～530 mm、メスで 315～494 mm。体鱗は滑らかで、胴のほぼ全域で 13 列に並ぶ。腹板数に地理的変異があり、オスが 165～196 枚、メスでは 170～196 枚。尾下板は 27～31 対。胴部背面の地色は淡い赤褐色ないし橙色で、黒縦条が普通 5 本走る。このうち少なくとも中央のものは 1 鱗幅ないしはそれよりも太い。また胴部には、白色で縁取られた黒い横帯が 6～14 本ある。これらの横帯は腹面で繋がらず、全体として環状になることはない。伊江島、渡名喜島、慶良間諸島の一部、久米島のものはこのような黒色横帯を欠く場合が多く、あっても痕跡的である。尾は短く、円筒状で、急に終わって先端だけが尖る。

【生活史】

爬虫類食と考えられており、餌としてブラーミニメクラヘビ、オキナワヒメトカゲ、クロイワトカゲモドキ、オキナワトカゲなどが報告されている。6 月の中旬～下旬に 5 卵程度を産む。5 月に久米島でコンバットの観察例がある。

【生息環境】

山地から平地にかけての森林に生息し、石灰岩地でもみられる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

伊平屋島から久米島に至る沖縄諸島の多くの島々に分布している。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本種の分布が知られている多くの島で開発に伴う森林の消失が進み、分布域は狭まっていると考えられる。慶良間諸島の島々などでは長年本種の目撃記録がなく、現状は不明。

【生息地の現況】

沖縄島にはマングース、慶良間諸島にはイタチといった外来種がおり、本種を圧迫していると思われる。

【個体数の現況】

具体的な資料はないが、生息域の広い範囲にわたって生息適地は減少しており、個体数は減っていると考えられる。特に、主要な分布地の一つである沖縄島では、中部から南部での目撃例が減っており、個体数の減少は間違いない。

存続を脅かす要因

開発による生息適地の消失、外来種のマングースによる捕食などが主な減少要因と考えられる。		
要因の区分：	（過去）	森林伐採，捕食（外来種による）
	（現在）	森林伐採，圃場整備，交通インフラ建設，捕食（外来種による）

特記事項

本種の体色に警告色としての機能は無いことが示唆されているが、体色パターンは徳之島の集団と酷似しており、その進化的な意味に興味がもたれる。また、一部の地域で黒色横体を欠く変異もあり、体色パターンの機能を考える上で興味深い。沖縄諸島の 25 を超える島々から記録があるが、多くの小島では最近の情報が全くなく、生息実態は不明である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第４次 2019：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第４次 2018：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第４次 2017：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第４次 2015：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第４次：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第３次：	ハイ	*Sinomicrurus japonicus boettgeri*	NT
第２次：	ハイ	*Hemibungarus japonicus boettgeri*	NT
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【鹿児島県】準絶滅危惧，【沖縄県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kaito, T., H. Ota, and M. Toda, 2017. The evolutionary history and taxonomic reevaluation of the Japanese coral snake, *Sinomicrurus japonicus* (Serpentes, Elapidae), endemic to the Ryukyu Archipelago, Japan, by use of molecular and morphological analyses. J. Zool. Syst. Evol. Res., 55(2): 156–166.

- Mochida., K., W. Y. Zhang, and M. Toda, 2015. The function of body coloration of the hai coral snake *Sinomicrurus japonicus boettgeri*. Zool. Stud. 54: 1–6.
- 太田英利・岩永節子，1996．野外でハイ（有鱗目コブラ科）のコンバットダンスを観察. Akamata，13: 13-14.
- Ota, H., A. Ito, and H. C. Lin, 1999. Systematic review of the elapid snakes allied to *Hemibungarus japonicus* (Günther, 1868) in the East Asian islands with description of a new subspecies from the central Ryukyus, Japan. J. Herpetol., 33: 675—687.
- Smart, U, M. J. Ingrasci, G. C. Sarker, H. Lalremsanga, R. W. Murphy, H. Ota, M-C. Tu, Y. Shouche, N. L. Orlov, and E. N. Smith. 2021. A comprehensive appraisal of evolutionary diversity in venomous Asian coralsnakes of the genus *Sinomicrurus* (Serpentes: Elapidae) using Bayesian coalescent inference and supervised machine learning. J. Zool. Syst. Evol. Res., 59(8): 2212–2277.
- 戸田守・千木良芳範，2017．ハイ．沖縄県環境部自然保護課（編），改定・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第 3 版（動物編）－レッドデータおきなわ－，pp．210-211．沖縄県環境部自然保護課，那覇.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Sinomicrurus boettgeri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sinomicrurus boettgeri* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Field preparation, Transportation infrastructure construction, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	—



執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月